

令和3年度 学校評価アンケート結果の分析について

大沼高等学校学校評価委員会

○今年度の学校評価アンケート及び分析にあたって

設問内容については平成30年度に一部改正したものが今年度も継続して実施した。また、結果及びその分析については例年どおり本校のホームページにおいて公開するものとする。

今年度の保護者からのアンケート回収率は昨年度実績とほぼ同じ85.6%（昨年度比-0.02%）であった。昨年度からSNS（classi）を利用し、アンケートを実施している。一部、SNSの利用が難しい保護者には紙媒体での回答を依頼した。最終的には8割を超える保護者に回答をいただいたが、クラスによっては回答率が7割に満たないなど、アンケートの実施方法は今後も改善の余地がある。特にclassiの利用については本アンケートでの利用に留まらず、様々な形で学校からの情報発信や保護者からの連絡などに利用していけるように利用促進を図っていききたい。なお、生徒からの回答率は99.5%（昨年度比+3.4%）、教員は100%であった。

1 結果概要

全18設問項目のうち、a・bを合わせた肯定的評価が80%以上となった項目は以下のとおりである。

- ①生徒・保護者・教職員すべてで80%以上・・・11項目（Q1,2,4,6,8,11,12,14,15,16,17）
- ②生徒・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目（Q9）
- ③生徒・保護者で80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目（Q3）
- ④保護者・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目（Q18）
- ④生徒のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目（Q10）
- ⑤保護者のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・0項目
- ⑥教職員のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・2項目（Q7,13）
- ⑦いずれも80%に達しなかった・・・・・・・・・・・・・1項目（Q5）

生徒と保護者いずれかから肯定的な評価を得たものは18項目中15項目であった。昨年度より1項目減ったが、概ね本校の教育活動に対し理解が進み、一定の評価を得られたものとする。一方、肯定的評価が相対的に低かった項目は例年同様（Q7,13）となっており、その分析については後述したい。また教職員からの肯定的評価が6割に満たなかった項目が2項目あった。（Q5,Q10）

2 学校経営・運営ビジョンとの関連

本校の教育活動の基本方針である学校経営・運営ビジョンに直接関係ある設問、Q1「本校は『個々に生きぬく力を育み地域社会に貢献する人材を育てる学校』だと思う」という問いでは肯定的評価が生徒86.0%、保護者87.2%、教職員95.2%となり、いずれも高い評価だった。昨年度比では生徒+3.2%、保護者-1.8%、教職員-0.8%で、保護者、教職員は微減だったが、生徒では3.2%の伸びだった。3年目を迎えた総合的な探究の時間における地域探究学習が少しずつ軌道に乗り、生徒達の実感として地域についてよく考える時間が増え、自ら地域に関わろうとする意識が高まったことがアンケート結果につながったと思われる。また、今春卒業した生徒の進路では公務員として地元町役場に就職を果たした者や地方行政に興味を持ち、福島大学人文社会学群行政政策学類に2名が進学するなど、総合的な探究の時間で培った地域社会に貢献しようとする人材の芽が少しずつ育ってきていることは喜ばしいことである。

3 質問項目と校務分掌上の関連

アンケートの各質問項目と各校務分掌上の関連については以下のとおりである。

●：直接的な関連あり ○：間接的な関連あり ◎：教科、委員会により関連あり

Q	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
校務分掌																			
H R	●		●	●	○	●	●	●	○	○	●	○	●	●	●			○	
教科	●	●	●	●	◎	○	○	◎			◎		○						
教務部	●	●	●	●			○				○							○	
生徒指導部	●			○		●	●		○	●	●	○	○	●	○			○	
進路指導部	●			○	○	○	○	●					○					○	
総務部	●					○			○		●	○	●	○				●	●
保健厚生部	●			○		○	○						○	●	●				
図書部	●		○	○	○			○									●		
委員会	●			○	◎				◎				◎					◎	

4 各項目の分析（回答から読み取れるもの：単年度）

肯定的評価が比較的良かった質問項目は以下のとおりである。

(1)生徒からの肯定的評価が良かったもの（肯定的評価75%未満）

なし

(2)保護者からの肯定的評価が良かったもの（肯定的評価75%未満）

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 69.4%

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 68.8%

(3)教職員からの肯定的評価が良かったもの（肯定的評価75%未満）

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 57.1%

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 57.1%

保護者、教職員を共通してQ5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」、Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」の2項目で肯定的評価が良かった。

Q5の資格取得については本校では英語検定、数学検定、漢字検定、情報処理検定の4つの検定試験を本校準

会場として取り組んでいるところであるが、年々受験者数が減少している。特に英語検定と数学検定では受検希望者が足りずに準会場としての検定ができない状況になっている。このような状況がアンケート結果に反映されたものと思われる。検定試験については各担当教科で生徒への募集をしているが、なかなか受験者の増加につながっていない。検定試験自体の意義と合わせて、授業において日頃から基礎学力の大切さや自己の学力の把握の大切さを生徒に説き、積極的な受験を促すとともに、受験対策などの指導の充実を図り、生徒の学習への意欲と受験への動機付けを行う必要がある。

Q10の部活動の活性化については本校の規模縮小から部活動の精選が進み、2年前にバスケットボール部男女、今年度にはレスリング部が廃部となり、また野球部も新入部員の入部停止、活動休止状態となっている。また既存の部活動でも生徒数の減少も相まって実際に参加し活動している生徒数が減少しており、一部を除いて部活動の縮小や不活性化が進んでいる。こうした状況を反映したアンケート結果となっている。部活動については教職員の働き方改革との兼ね合いもあるが、本校生の場合は生徒の自主性に任せきりでは部活動が成り立ちにくく、ある程度教員側（指導者）が介入しないとイケない場面が多い。校務分掌の面から適材適所の校務の振り分けを行うとともに、効率的、かつ指導効果の上がる部活動運営について教職員側でも研究しなければならない。

5 各項目の分析（昨年度との比較）

(1)生徒からの肯定的評価が減ったもの（－5.0%を超えるもの）

Q8「本校は、進路希望に応じて適切な進路指導を行っている」 －6.7%

(2)保護者からの肯定的評価が減ったもの（－5.0%を超えるもの）

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 －6.5%

Q11「本校は、文化祭、球技大会、強歩大会などの学校行事を充実させている」 －5.2%

(3)教職員からの肯定的評価が減ったもの（－5.0%を超えるもの）

Q5「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 －10.9%

Q9「本校は、ボランティア活動を奨励している」 －10.3%

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 －14.9%

Q11「本校は、文化祭、球技大会、強歩大会などの学校行事を充実させている」 －14.8%

Q15「本校は、校内の清掃に力を入れ、環境美化に努めている」 －7.0%

Q16「本校には、必要な図書、その他資料が用意され、閲覧できる環境が整っている」 －6.3%

生徒の回答ではQ8「本校は、進路希望に応じて適切な進路指導を行っている」という項目で肯定的評価の減少幅が大きかった。全体の肯定的評価の割合は89.3%と低くはないが、昨年度の96.0%から数字が下がった。今後進路指導部を中心に分析（学年ごとの評価の違いや進路希望別の違いなど）を進める必要がある。進路指導は3年間を見通して生徒に力をつけさせ、実現を図っていかなければならない。本校は坂下高校との統合を来年度に控え、新たな会津西陵高校としての進路指導のあり方を確立していく必要がある。そうしたことからこの項目の結果については今後十分に議論がなされなければならない。

保護者の回答ではQ10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」とQ11「本校は、文化祭、球技大会、強歩大会などの学校行事を充実させている」の2項目で評価を下げた。Q10については前述の通りである。一方、Q11については教職員と共通して評価を下げる結果となった。また教職員の回答ではQ9の「本校は、ボランティア活動を奨励している」も評価を下げている。Q9、11の2項目は昨今の新型コロナウイルス感染症の流行が少なからず影響していると思われる。学校行事にしても、ボランティア活動にしても様々な場面で活動の制限や行事、活動そのものの中止などが相次ぎ、十分に行うことができなかつたことが大きな要因であると考えら

れる。

教職員の回答では前述の Q5、9、10、11 の他に Q15「本校は、校内の清掃に力を入れ、環境美化に努めている」と Q16「本校には、必要な図書、その他資料が用意され、閲覧できる環境が整っている」の校内設備等に関する2項目で評価を下げる結果となった。Q15については日常の清掃指導等、見直すことで改善を図ることができると思われる。一方図書の充実については、予算の兼ね合いもあり一朝一夕に改善されるものではないが、選書委員会による適切な図書選定を進めて充実を図っていききたい。

6 各項目の分析（生徒・保護者と教職員との乖離）

(1) 生徒と教職員との乖離が大きかったもの（-10.0%を超えるもの）

Q2「本校は、生徒の理解度に応じた授業を行っている」	-11.0%
Q7「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」	-22.3%
Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」	-19.5%
Q14「本校は、生徒にとっては安心して生活でき、保護者にとっては子どもを安心して行かせることができる学校である」	-11.6%

(2) 保護者と教職員との乖離が大きかったもの（-10.0%を超えるもの）

Q2「本校は、生徒の理解度に応じた授業を行っている」	-10.2%
Q7「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」	-22.7%
Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」	-16.3%

生徒、保護者共して Q2、7、13 の3項目が教職員の回答との乖離が大きかった。Q2について、生徒、保護者の回答自体はそれぞれ肯定的評価が84.2%、85.0%と低くはないが、教員が思っている以上に授業について行けない生徒が潜在していることを反映した結果と捉えなければならない。新型コロナウイルス感染症の流行にともなって GIGA スクール構想、統合による ICT 機器の配備が今後一気に進んでいくが、これを好機と捉え、こうした機器も利用した授業内容の工夫やとくに学力差に対応した「指導の個別化」や「学習の個性化」を研究、実践していかなければならない。

Q7 と Q13 は例年教職員の回答との間で乖離が大きく見られる項目である。一昨年度からの推移と乖離幅の変化については以下の表にまとめた。

Q7 「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」

	令和元年度		令和2年度（昨年度）		令和3年度（今年度）	
	肯定的回答率	乖離幅	肯定的回答率	乖離幅	肯定的回答率	乖離幅
生徒	74.3%	25.7%	81.4%	14.6%	77.7%	22.3%
保護者	77.5%	22.5%	79.5%	16.5%	77.3%	22.7%
教職員	100.0%		96.0%		100.0%	

Q7 については一昨年から昨年度では乖離幅が大幅に改善されたが、今年度は一昨年度の水準に戻ってしまった。特に生徒からの肯定的評価の減少が気になるところである。定期的な被害調査（いじめ調査）や個人面談では特に重大な事案や生徒からの訴え等はないが、日常悩みや不安を抱えている生徒が潜在化しているとも読み取れることから、学年、生徒指導部を中心として生徒相談の充実や日頃からの生徒観察を十分に行っていく必要がある。新型コロナウイルス感染症による不安感なども生徒は抱えていることも考えられるので、これまで以上に心のケアに努めていきたい。

Q13 「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」

	令和元年度		令和2年度（昨年度）		令和3年度（今年度）	
	肯定的回答率	乖離幅	肯定的回答率	乖離幅	肯定的回答率	乖離幅
生徒	66.4%	29.8%	78.7%	17.3%	75.7%	19.5%
保護者	57.5%	38.7%	77.4%	18.6%	78.9%	16.3%
教職員	96.2%		96.0%		95.2%	

Q13については一昨年度から昨年度改善し、今年度はやや後退したものの昨年度の水準をほぼ維持した結果となった。家庭への情報提供は学年ごとに学年通信やSNS（classi）を通じて行われている。この項目の乖離幅について一気に改善することは難しいかもしれないが、これからも学校として知らせたい情報を発信し続けるとともに、保護者が欲している情報について各部署で分析・検討し、情報伝達のよりよいあり方を追求していきたい。

生徒の回答ではQ14「本校は、生徒にとっては安心して生活でき、保護者にとっては子どもを安心して行かせることができる学校である」という項目で教職員との乖離が見られた。この項目の乖離は昨年度も-10.9%（教職員96.0%に対し生徒85.1%）だった。Q7での分析でも述べたが、潜在的に登校することや学校生活に不安を抱いている生徒がいることが数字に反映されていると考えられるので、生徒指導部や学年を中心に連携した組織的な生徒指導・生徒相談活動を行い、生徒の不安が改善されるように努めていかなければならない。

7 その他

昨年度のアンケート結果より大きく改善した項目にQ17「本校は、広報誌やホームページ等を通して適切に情報提供を行っている」がある。生徒、保護者の回答とも+3.0%以上（昨年度比、生徒+5.6%、保護者+3.5%）となった唯一の項目だった。今年度、本校ホームページの更新頻度を大幅に上げ、特に「学校ブログ」で校内での様子を発信したことによる成果と思われる。